資料 1

第２回 調布市立小・中学校プールのあり方に係る検討委員会　概要

１　日時

令和８年７月２１日（火）１０時００分から１１時３０分まで

２　場所

教育会館３０１、３０２研修室

３　出席者

(1)　委員

菊山委員、内藤委員、恩田委員、宮田委員、伊東委員、髙橋委員、小鍛治委員、奥山委員、泉委員

(2)　事務局

ア　ファシリティマネジメント課

河本課長、曽根主幹

イ　学務課

岡本課長

ウ　社会教育課

小林課長補佐

エ　教育総務課

森木副主幹、浅井係長、平野主任

４　進行

(1)　第１回検討委員会の振り返りについて

(2)　議題についての説明及び質疑応答

ア　小・中学校プールに係るアンケート調査等の実施結果について

イ　市内屋内プール所有事業者へのヒアリング実施結果について

ウ　学校プールのあり方に係る基本的な考え方について

(4)　その他連絡事項

次回　９月３０日（水）１０時から　教育会館２０１、２０２会議室

５　質疑応答

【小・中学校プールに係るアンケート調査等の実施結果について】

(1)　意見の中に「準備が大変」とあるが、「準備」の内容を教えて欲しい。（奥山委員）

→移動のための時間を確保するために、給食や中休みの時間に重なる場合はその配分を減らす等することを指すと思われる。（事務局）

→バスの時間があるのでどうしても急かすことになってしまう。登校がゆっくり目などすると、よりそうなるので負担感が増したのではないかと感じる。（内藤委員）

(2)　水泳の授業は何を含んで、何時間なのか。（菊山委員長）

→２時間続きで１セットとしている。しかし、移動と入水で２時間だとまかないきれないところもあり、中休みの短縮などして対応している。（事務局・内藤委員）

(3)　アンケート回答対象に足しての回答数の割合はどれくらいか。（宮田委員）

→対象児童・生徒が１１００名に対して７６９件の回答となったので７割程度であった。保護者については、対象を児童・生徒の倍と考えていたが、実際には４８９件にとどまった。（事務局）

【市内屋内プール所有事業者へのヒアリング実施結果について】

(1)　ヒアリングの趣旨として、民間事業者さんの手ごたえ等の確認ということで間違いないか。（泉委員）

→御認識のとおり。（事務局）

(2)　良い感触だったということを受けて、実際にお願いするなど、今後さらに進めた話をする予定はあるか。（泉委員）

→屋内プールを整備するまでに時間がかかるので、予算を見ながら実施できるように検討したい。（事務局）

【学校プールのあり方に係る基本的な考え方について】

(1)　基本的な考え方（案）の上３つと下４つで内容が違うように感じるが、全体で基本的な考え方とするのか。また、この分け方とするならば、民間プールを活用することは上の３つに取込んで良いのではないか。（髙橋副委員長）

→長期的と短期・中期的に分かれているが、整理が不十分であった。今一度整理する。（事務局）

(2)　既存屋外プールの解体・撤去した後の利用は何か検討しているか。（泉委員）

→建替えの際の種地や調和小へ移動するためのバスの発着所、校庭の拡張など様々な活用ができると考えているが、各学校の状況を鑑みて検討したい。（事務局）

(3)　拠点校として運用する場合、外部指導員の配置は引き続き行うのか。（宮田委員）

→学校間の移動で授業時間が減ってしまう代わりに、濃密な授業を行うためにも外部指導員の配置は検討したいと思っている。（事務局）

(4)　拠点校とあるが、調和小・調布中以外の場所等は今後検討ということで良いか。また、総合体育館のヒアリングは行ったのか。（伊東委員）

→現時点では、基本的な方向のとりまとめの段階である。拠点校の詳細については、東西南北のバランスや費用も含めて今後検討していきたいと思っている。

なお、総合体育館については、ヒアリングが間に合っておらず今後実施する。（事務局）

(5)　拠点校とする場合、調和小のように民営部分が存在し、プールの維持管理等はお願いできるのか。また、民間を恒常的に活用する考えはないのか。（内藤委員）

→調和小同様にＰＦＩ等が前提になろうかとは思うが、今後検討していきたい。

　なお、民間を恒常的に使用することについては、民間が無くなったり、改修等で利用できないときに対応ができなくなるので、官民のバランスを見て検討・対応が必要と考えている。（事務局）